

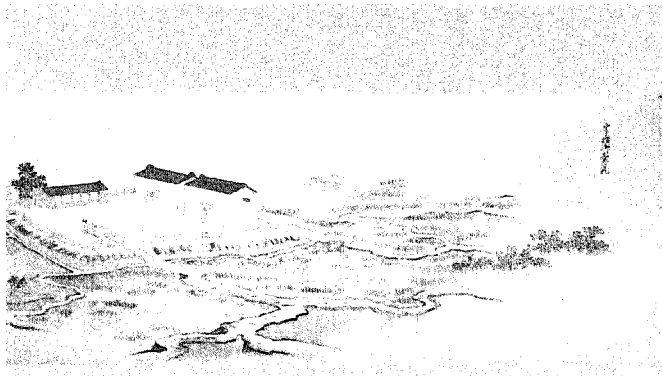
御茶壺道中その十一

内藤 恭 義

御茶壺谷村到着

復路の御茶壺道中は、お通茶壺ばかりでなく、現地調達したたぐさんの信楽焼の壺に詰められた茶も運ぶため、一層大きな行列となりました。

道筋も往路とは違う、中山道→甲州街道が使われました。茶壺を夏の間、谷村に保管するためです。湿気をさけるため、海沿いの東海道を使わなかったと解説する人もありますが、谷村での貯蔵が中止となると、直ちに東海道を使うようになっていきますから、谷村



宇治御茶蔵の内巻之茶壺御宇治 (国会図書館蔵)

大垣城での御壺お泊りの文書もありますから、御壺お泊りの地がいつも一定していたとは限りませんが、コースと日程は谷村保管の間はこんなものだったと思われまふ。勝沼を発った一行は、いよいよ谷村へ向かいます。この道筋について、従来、御坂みちから吉田を経て谷村へ入ったという説と、甲

州街道を大月まで来て、谷村保管の壺を送る一行と、そのまま江戸城へ運ぶ一行の二手に分れ、谷村送りの戻りを猿橋で待ったとする説がありました。

『御壺泊り覚』には、このことについて大切な記録があります。「人足七拾六人のうち拾式人は御壺を三つ江戸へ運ぶ人足として残すこと。残りの六拾四人は谷村で解雇しなさい」ということが記されています。すなわち、全部の壺が谷村へ運ばれているので、大月で二手に分れるとしているのは間違いだと判ります。一方、御坂路(鎌倉街道)の使用は、古文書の裏付けがなく、勝沼猿橋を富士吉田回りでは一日日程では無理があつて否定されます。

このようなことから、大月谷村間を厄介な荷物を携えての往復は理解しにくいので、距離的にも近道となる、初狩から現在の宝地域を通過して谷村に入る道がとられたことが想像されます。茶壺が勝山にあるお茶蔵に直接運ばれたとすると、中津森→厚原→川棚の道筋が一層近距離となりますから、茶壺道は初狩→谷村道ではなかったかと思ひます。

御茶壺道中は將軍家ばかりでなく、御三家諸大名も行いました。内閣文庫に『甲府日記』という古文書が保存されています。甲府藩徳川綱重時代、甲府藩でも茶壺道中を行い、茶壺を谷村秋元藩に預けたことが記されています。預け

る際、秋元家老より預かり手形を受けてとっているのが、將軍家の壺も同様に秋元家老立会いで預かり、証文として手形を受けとり、帰城に至ったものと思われまふ。採茶使一行は、夏の暑さをさけ

るための保存所である勝山の茶蔵に茶壺を預けるといふ大役が終つても、くつろぐ間もなく猿橋へと向いました。江戸城から持ち出され、新茶を詰めた一番大切なお通い壺を無事に江戸城へ届けるまで茶壺道中は続くのです。

訓練生・生徒募集

| | |
|---|--|
| <p>○機械科 定員10名 旋盤などによる金属材料の切削技術の習得</p> | <p>主な特典 授業料、教材費は無料(教科書等は自己負担)、鉄道等の学生割引(OA経理科)、雇用保険受給延長(受給資格者)</p> |
| <p>○服装科 定員15名 動力ミシンによる縫製、製図、裁断技術の習得</p> | <p>○OA経理科 定員18名 3月高校卒業見込者、高校卒業生で、おおむね30歳以下の者</p> |
| <p>訓練期間 6ヵ月間 4月12日～9月29日</p> | <p>○パソコン講座 表計算ソフト(初級)</p> |
| <p>対象者 離職者、転職希望者等</p> | <p>日程 3月13、14、16、17、20、22、23、24日 時間 午後6時～8時50分 定員 20人 受講料2000円 受付期間 3月6日まで</p> |
| <p>応募期間 2月1日～3月15日</p> | <p>問合先 都留能力開発センター ☎(43)8911</p> |
| <p>取得資格 (目標) 日商3・2級、全商1級、ワープロ検</p> | <p>締め切りです。</p> |